

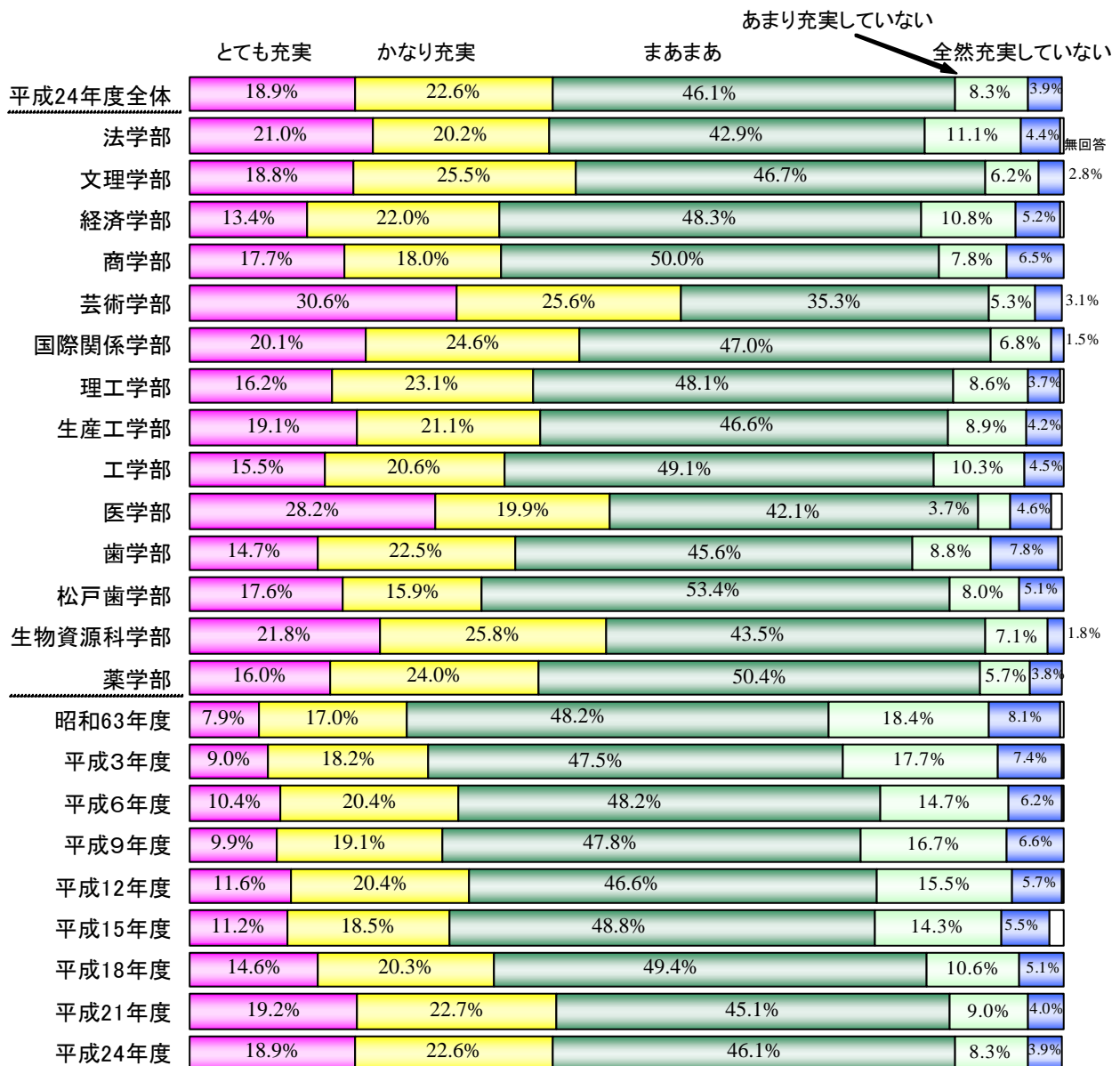
第3章 学生生活の満足度

1. 学生生活充実感

本学学生の4割が学生生活に充実感。学部間で多少の差。
 経年変化では、充実感が高まっていく傾向に一段落。

学生生活の充実感について本学学生全体の回答を見ると、「とても充実している」が18.9%、「かなり充実」が22.6%となっており、41.5%の学生が「充実」していると回答しています。学部別に「充実」していると答えた学生の比率を見ると、芸術学部が56.2%で最も高く、次いで医学部（48.1%）、生物資源科学部（47.6%）、国際関係学部（44.7%）の順となっています。一方、松戸歯学部では33.5%にとどまっており、「まあまあ」という回答が過半数を占めています。

経年変化を見ると、「充実」の比率は昭和63年度から21年間で17.0ポイント増と、学生生活の充実感が増大する傾向が見られていましたが、平成24年度は3年前と比較すると回答の分布はほぼ等しくなっており、充実感の高まりも一段落したようです。



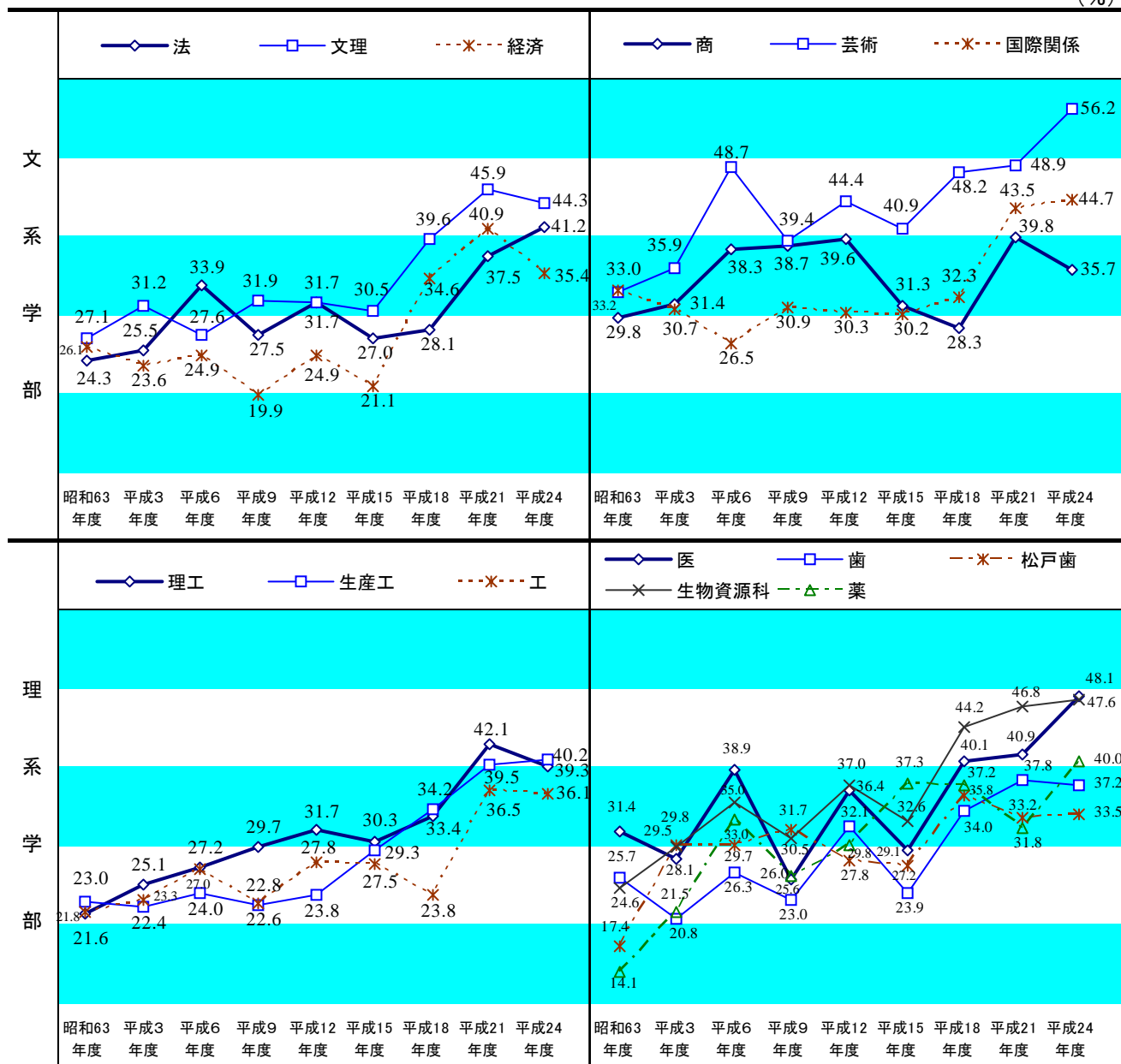
2. 学生生活充実感の学部別経年変化

学生生活が充実している学生の比率は、長期間では全学部で増加傾向。経済学部・歯学部・生物資源科学部は平成18年度、商学部・国際関係学部・工学部は平成21年度に急上昇。新カリキュラムの導入による勉学意識の向上が関連？

学部ごとに学生生活充実者の比率（「とても充実」と「かなり充実」の比率の合計）の経年変化を見ると、調査の年度ごとに上下動しながらも、昭和63年度からの24年間に全学部で充実者の比率が高まる傾向が見られますが、学部により短期間に急上昇した時期があることが分かります。例えば経済学部は平成15年度から平成18年度の3年間に21.1%から34.6%と13.5ポイント増、同様に歯学部と生物資源科学部は同時期、商学部・国際関係学部・工学部は平成21年度にそれぞれ3年前より10ポイント以上増加しています。医学部では平成15年度から平成24年度の9年間で19.0ポイント、文学部では平成15年度から6年間で15.4ポイントの増加が見られます。直近の3年間だけを見ると、芸術学部と薬学部で10ポイント近い増加が見られます。各学部とも新カリキュラムの導入等による勉学意識の向上などが関連しているものと思われます。

学部別、「学生生活が充実している」経年変化

(%)

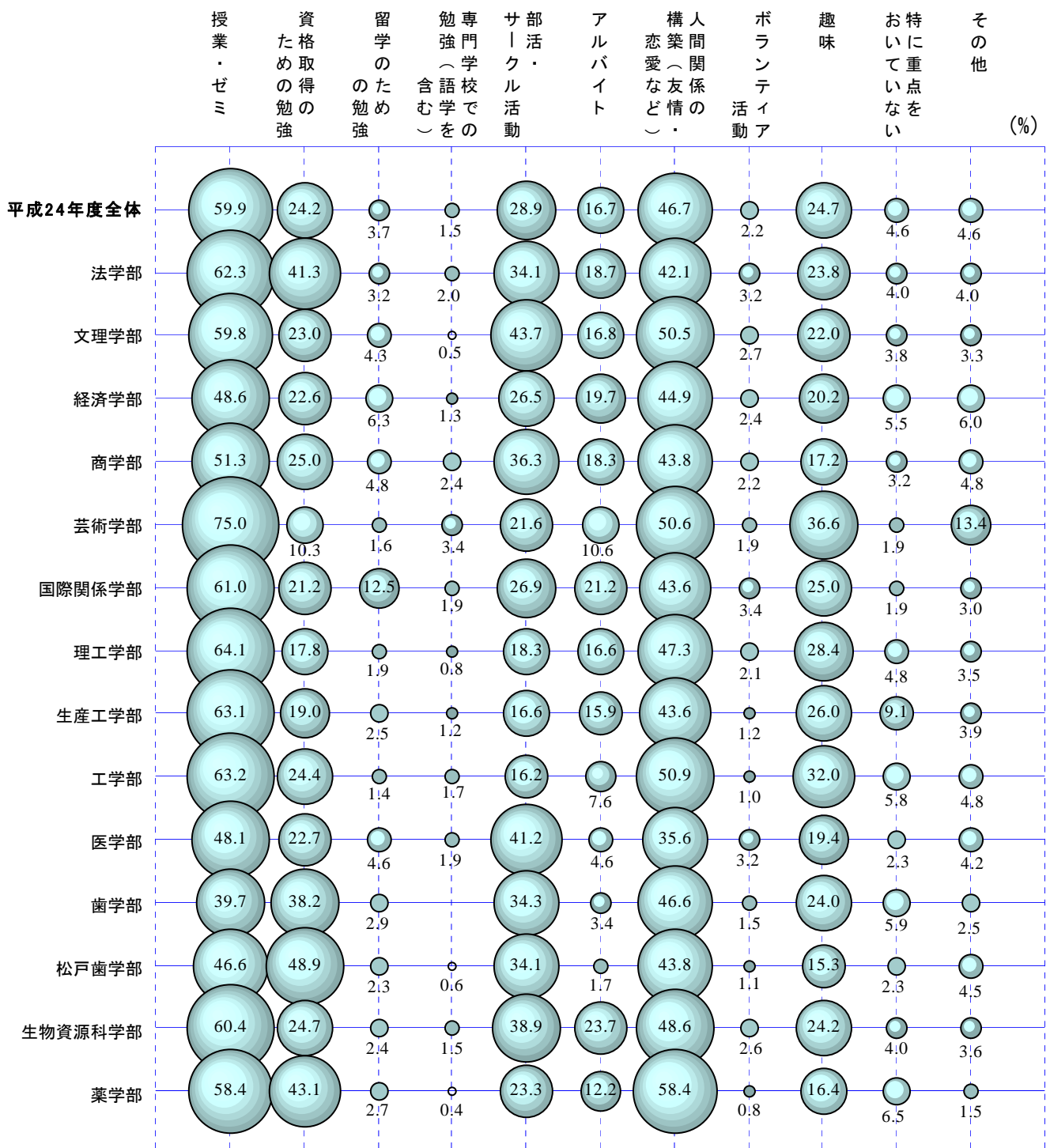


(注) 「とても充実している」と「かなり充実している」の%の合計

3. 学生生活で重要視すること

学生生活で重要視することは、「授業・ゼミ」が1位、次いで「人間関係の構築」。
「人間関係」より「授業・ゼミ」重視が強まる傾向が6年前から継続。

学生生活で重要視することを全体で見ると、「授業・ゼミ」が59.9%で最も高く、「人間関係の構築」が46.7%で2番目、「部活・サークル活動」「趣味」「資格取得のための勉強」が続いています。学部別に見ると、6年前の調査では「人間関係の構築」がトップの学部が7学部ありましたが、3年前は歯学部のみ、今回は歯学部と薬学部（薬学部は「授業・ゼミ」と同率）となっています。人間関係構築より授業・ゼミ重視の傾向が継続しているようです。

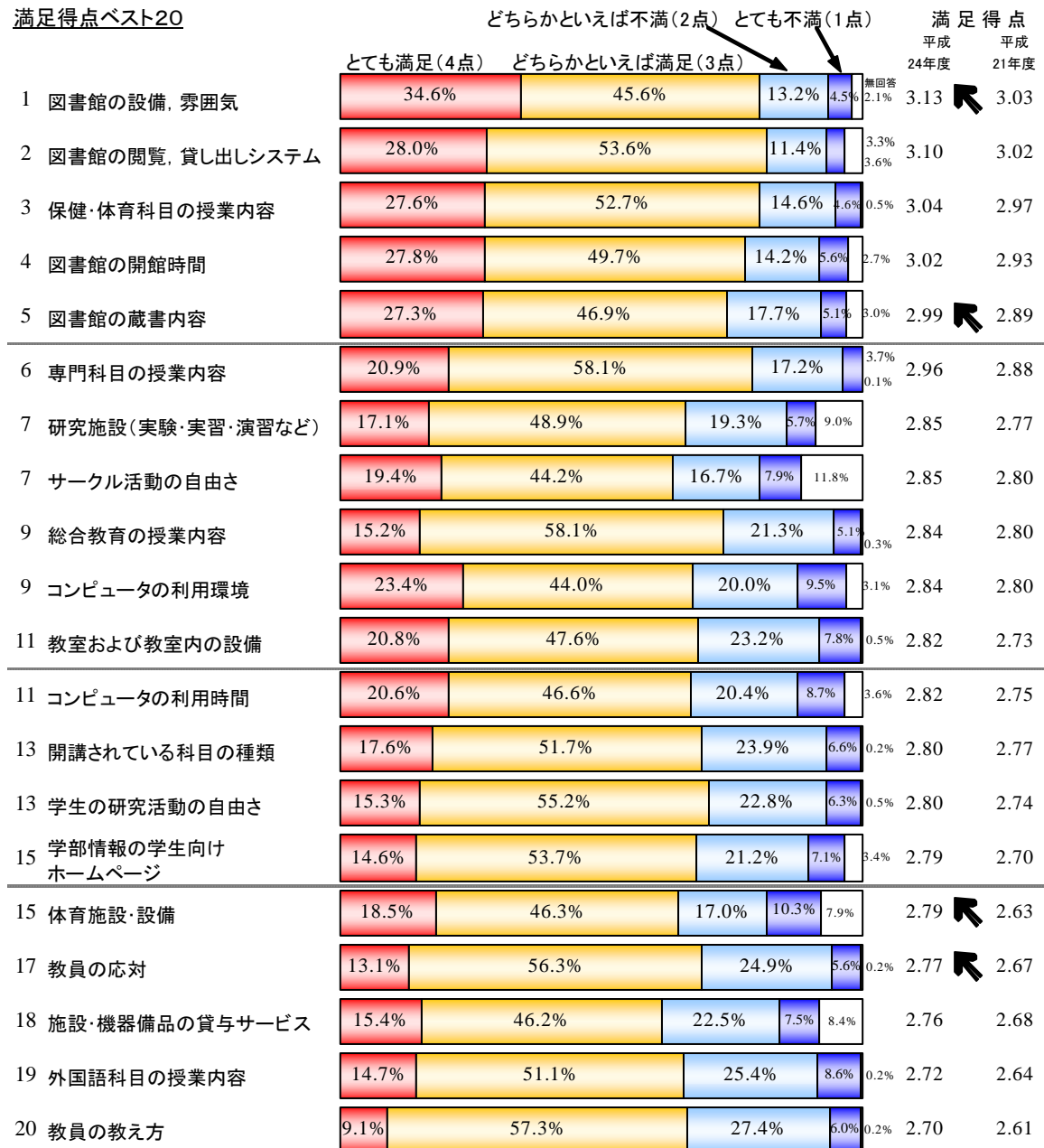


4. 日本大学全体でみた満足得点の高い項目

図書館に対する満足度が非常に高く、上昇傾向。コンピュータや授業の満足度も高い。
3年前と比較して、体育施設・設備、教員の対応の満足度向上が目立つ。

授業・施設・サービスなどについての学生全体の満足得点の高い順を見ると、「図書館の設備、雰囲気」が3.13で最も高く、「図書館の閲覧、貸出しシステム」「図書館の開館時間」「図書館の蔵書内容」が5位以内にランクされています。各学部とも図書館を重視しており、蔵書の充実、IT技術による全学統一検索・閲覧システムの導入、ラウンジコーナーの設置など多機能化の推進が学生に評価されていることが分かります。コンピュータについては満足得点の9位に「利用環境」、11位に「利用時間」が挙がっています。授業については、「保健・体育科目」が3位、「専門科目」が6位、「総合教育科目」が9位にランクされており、ハード面だけでなく、授業に対する満足度も高いと言えます。3年前と比較すると、「図書館の設備、雰囲気」「図書館の蔵書内容」「体育施設・設備」「教員の対応」に対する満足度の向上が目立っています。

満足得点ベスト20



注) 満足得点は「とても満足(4点)」～「とても不満(1点)」とした加重平均値。無回答は母数から除いている。

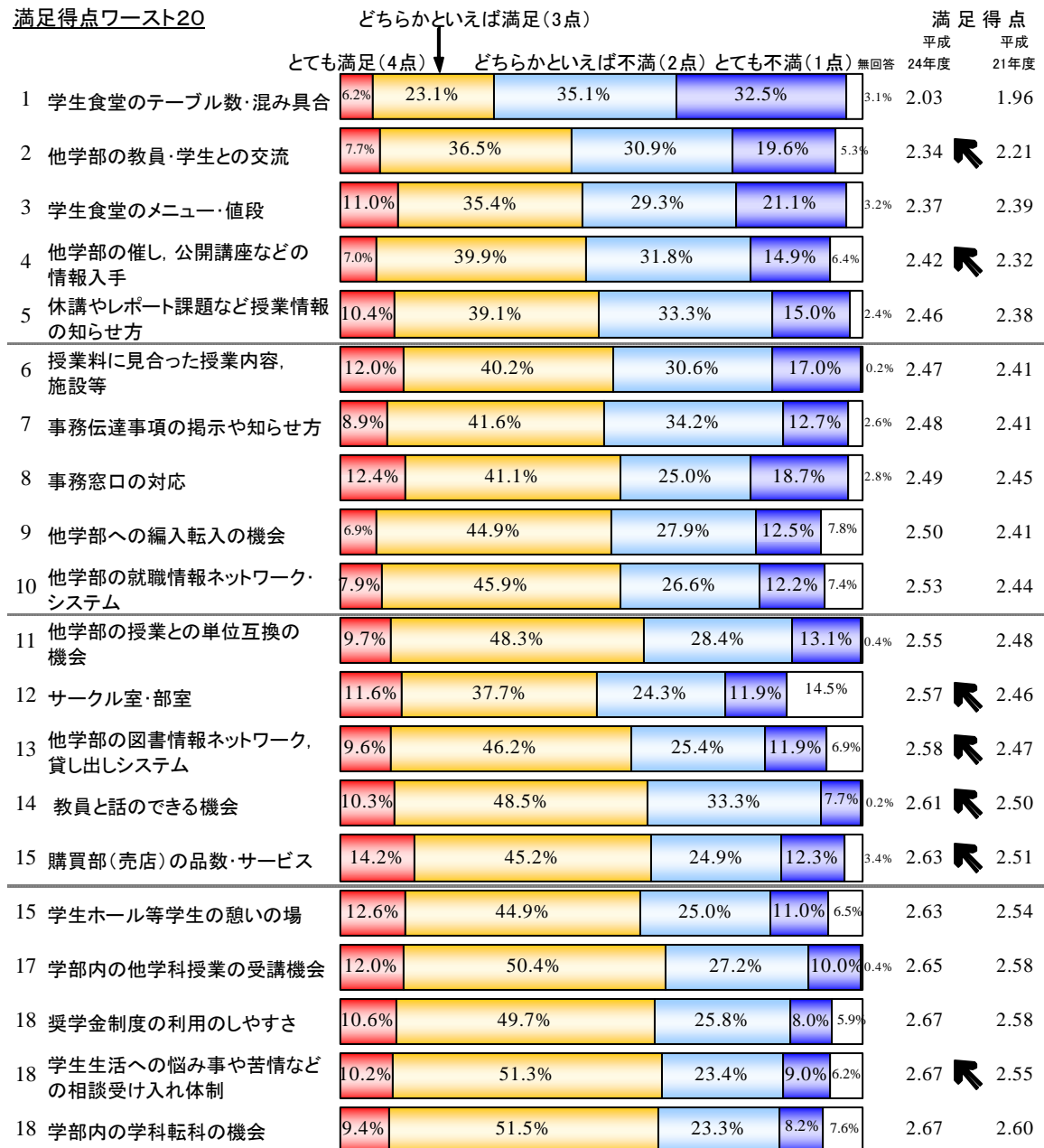
0.10点以上上昇……

5. 日本大学全体でみた満足得点の低い項目

依然、学生食堂に関する不満が上位を占めており、キャンパス間の交流を望む声も強い。ワースト20のうち19項目で3年前より改善傾向。特にキャンパス間の交流に関する不満が減少。

授業・施設・サービスなどについて、学生全体の満足得点の低い順を見ると、「学生食堂のテーブル数・混み具合」が2.03（不満が67.6%）でワースト1位、「学生食堂のメニュー・値段」がワースト3位と学食に対する不満が強く表れています。ワースト2位は「他学部の教員・学生との交流」、4位は「他学部の催し等の情報入手」となっており、14学部が首都圏中心に他県にも分散していても、キャンパス間の交流を強く望んでいることが分かります。「授業情報の知らせ方」が5位、「事務伝達事項の掲示や知らせ方」が7位と、学生にとって不可欠な情報の伝達方法についても不満度は高いと言えそうです。3年前と比較すると、ワースト20のうち19項目で改善傾向が見られますが、特に「他学部の教員・学生との交流」「他学部の催し等の情報入手」などで改善度が目立ちます。

満足得点ワースト20



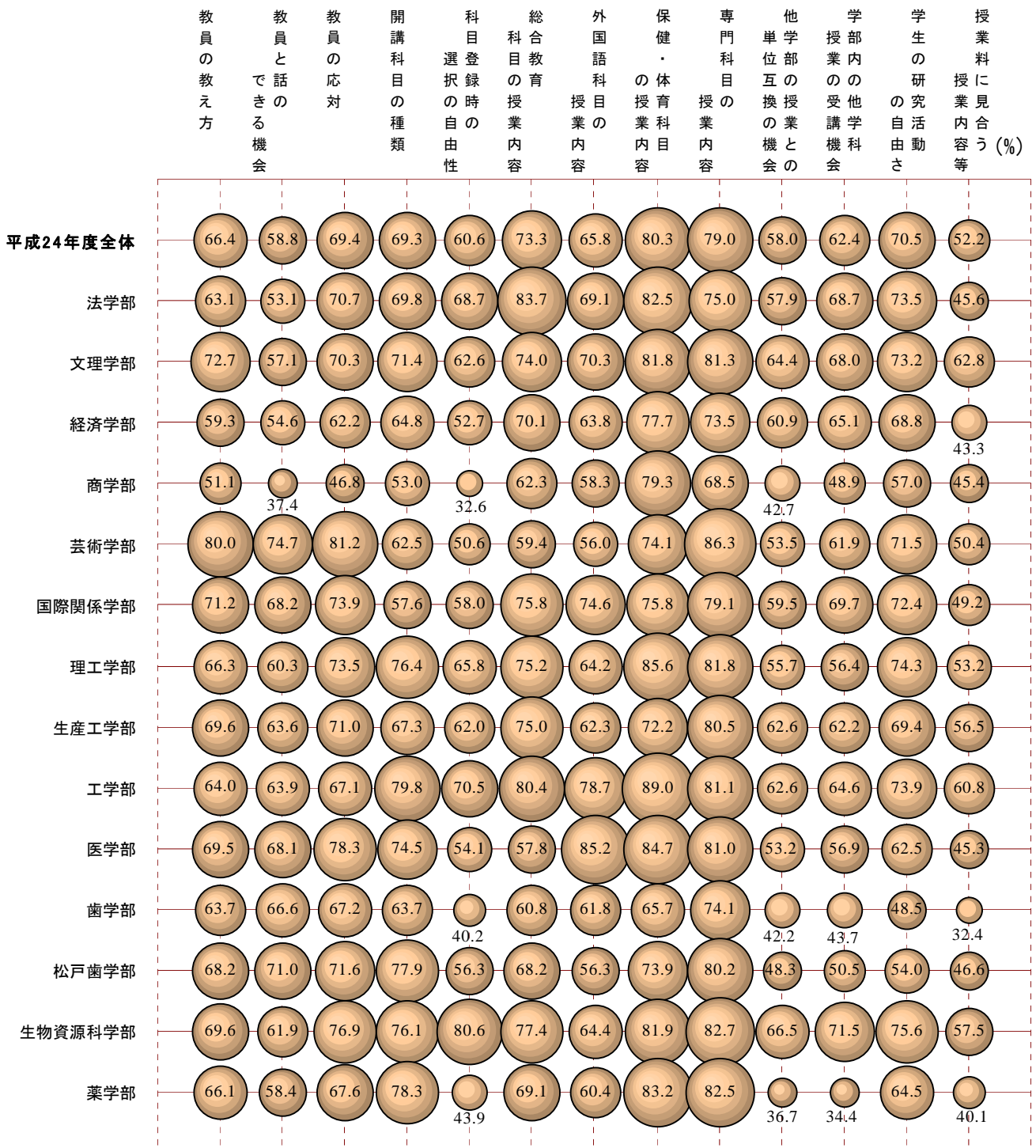
注) 満足得点は「とても満足(4点)」～「とても不満(1点)」とした加重平均値。無回答は母数から除いている。

0.10点以上上昇……

6.授業についての満足層の比率

「教員の教え方」「教員の応対」「専門科目の授業」の満足度は芸術学部で高く、授業の選択など柔軟性に関する満足度は生物資源科学部で高い。

授業についての満足層（とても満足+どちらかといえば満足）の比率を学部別に見たものが下図です。「教員の教え方」と「教員の応対」はほとんどの学部で60%以上、特に芸術学部で80%以上と高くなっています。「専門科目の授業」は芸術学部の86.3%を筆頭に9学部で80%を超え満足度の高さが際立っています。11学科を擁する生物資源科学部は、「科目登録時の選択の自由性」「学部内の他学科授業の受講機会」「他学部の授業との単位互換の機会」が14学部中トップとなっており、授業に関する柔軟性が評価されています。対照的に、商学部・薬学部・歯学部ではこれら3項目の満足度が低くなっています。



7. 施設についての満足層の比率—その1

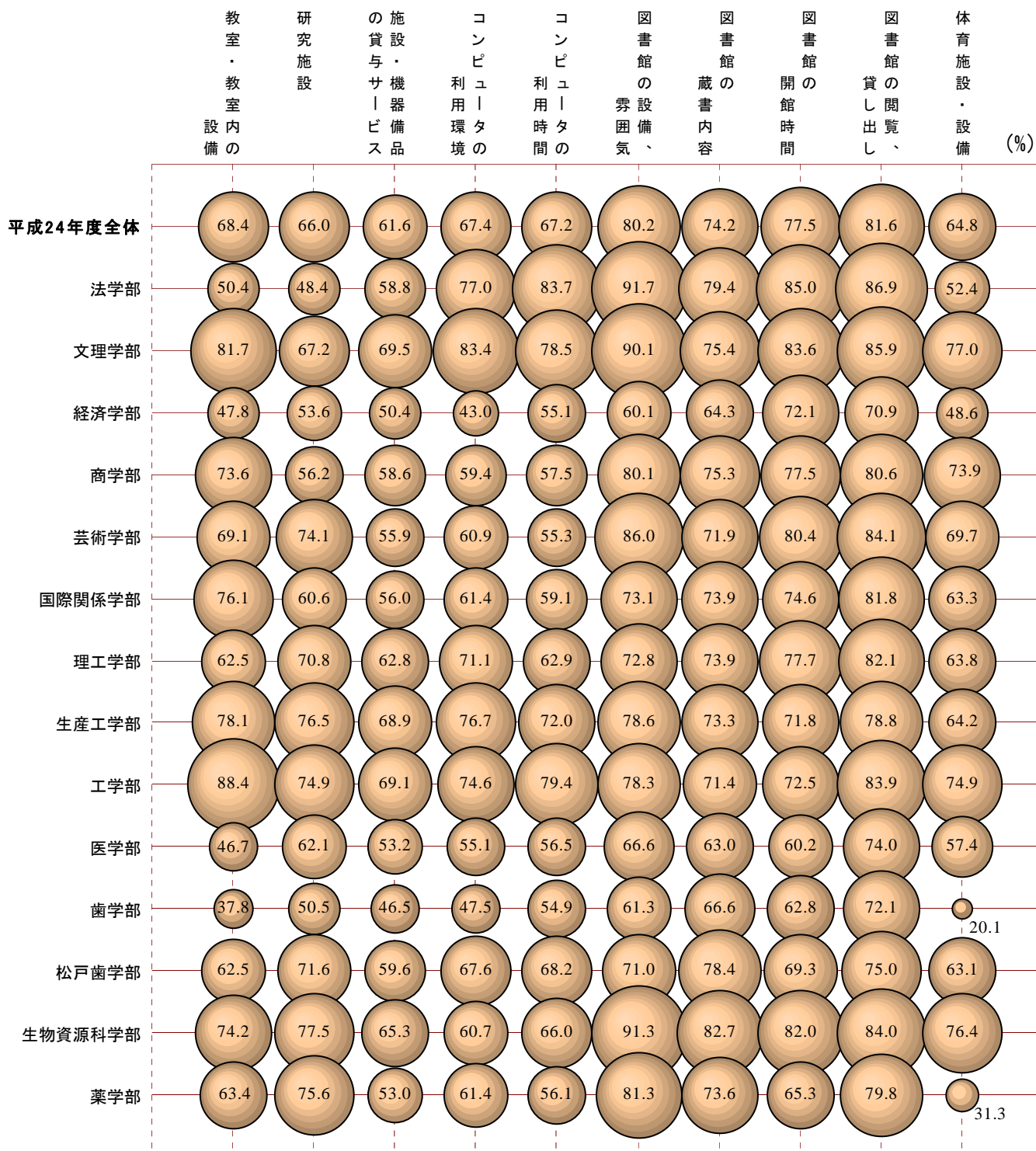
教室・教室内の設備に対する満足度の高い学部は工学部と文理学部。商学部で大幅アップ。

コンピュータに関して、利用環境は文理学部，利用時間は法学部がトップ。

図書館の満足度は概ね高く，設備，雰囲気は法学部・文理学部・生物資源科学部で特に高い評価。

勉学に関する施設について、満足層の比率を学部別に見たものが下図です。「教室・教室内の設備」に対する評価が高い学部は工学部と文理学部で、80%台となっています。3年前と比較して商学部で30.4ポイント、国際関係学部で16.2ポイントと大幅な増加が見られます。

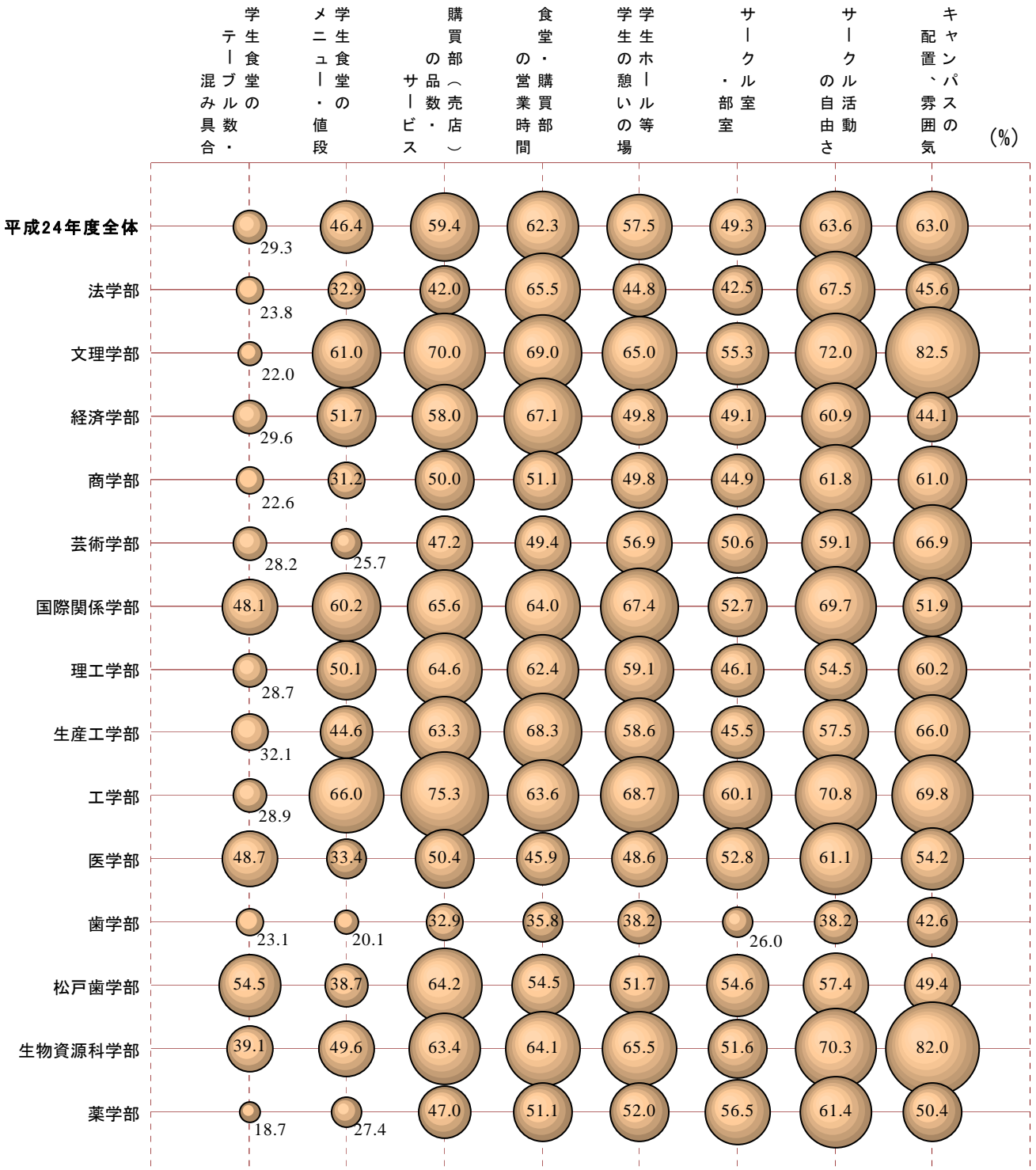
コンピュータの「利用環境」は文理学部、「利用時間」は法学部で最も満足度が高くなっています。各学部とも図書館に関する満足度は高くなっていますが、特に「図書館の設備、雰囲気」については法学部・生物資源科学部・文理学部で90%強と高い評価を得ています。



7. 施設についての満足層の比率—その2

学生食堂の満足度は学部によってバラつきが見られる。
 文理学部と生物資源科学部はキャンパスの配置，雰囲気に対する満足度が高い。

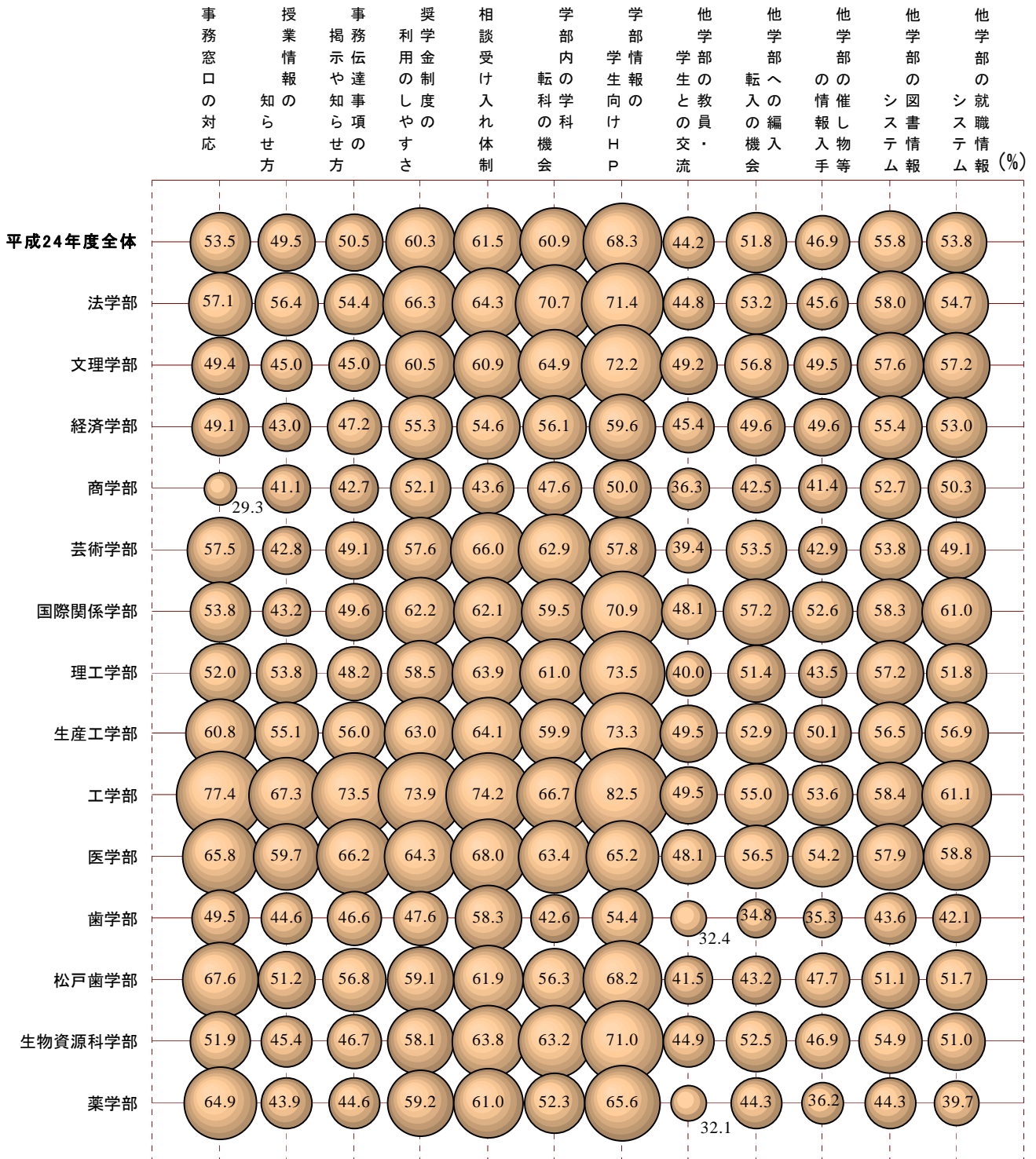
付帯施設について，満足層の比率を見たものが下図です。学生食堂に関して，「テーブル数」は松戸歯学部54.5%から薬学部の18.7%まで，「メニュー・値段」は工学部の66.0%から歯学部の20.1%まで大きなバラつきが見られます。「キャンパスの配置，雰囲気」については，近年新教室棟の運用を開始し最新の設備を多く有する文理学部と，平成14年4月に湘南キャンパスに統合移転した生物資源科学部でともに80%強と高い点が際立っています。



8. 対応・サービスについての満足層の比率

事務窓口の対応や伝達方法、学生向けHPに対する満足度は、工学部が最高。
総合大学である本学の特長を活かした「学部間交流」を望む声強い。

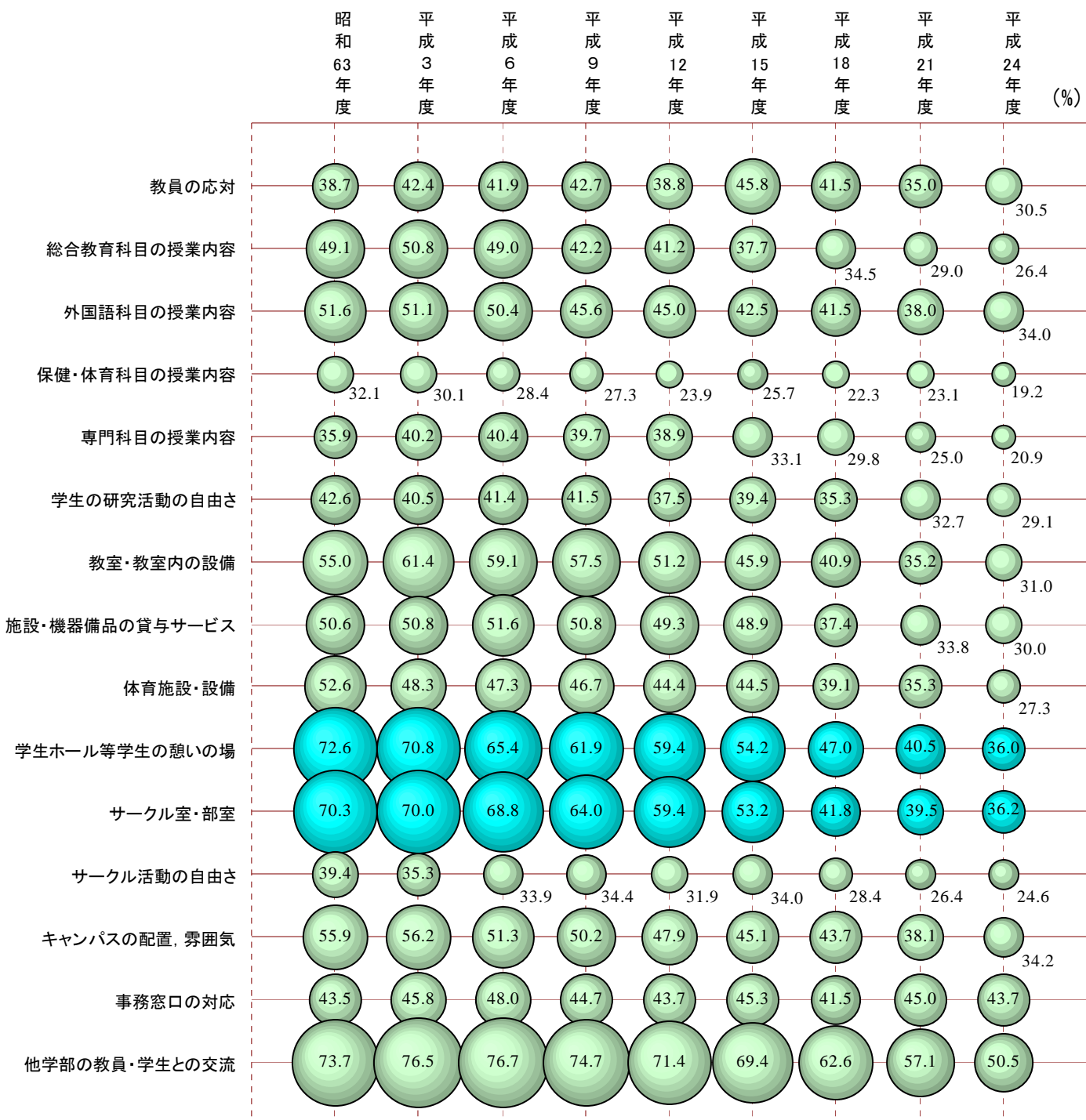
学部と本学全体の対応・サービスについての満足層の比率を見たものが下図です。「事務窓口の対応」はバラつきの大きさが目立っています。「事務伝達事項の掲示や知らせ方」や「学部情報の学生向けHP」も同様の傾向が見られます。「他学部の教員・学生との交流」は全学部で50%未満と低く、文理学部・経済学部・商学部・国際関係学部を除く10学部で最低となっており、総合大学である本学の特長を活かした「学部間交流」を望む声強いことがうかがえます。



9.不満足項目の経年変化

24年前と比較して、「学生の憩いの場」と「サークル室・部室」は不満の漸減傾向が顕著。「他学部の教員・学生との交流」と「教員の対応」も不満が減少傾向。

第1回調査（昭和63年）から継続している調査項目について、不満足比率を経年変化で見たものが下図です。不満層の漸減傾向が顕著なのは「学生ホール等学生の憩いの場」（24年間で36.6ポイント減）と「サークル室・部室」（同34.1ポイント減）です。また、「他学部の教員・学生との交流」も平成6年度の76.7%をピークに漸減し、18年間で26.2ポイント減少しています。さらに、「教員の対応」は平成15年度の45.8%から9年間で15.3ポイント減少しています。一方、「事務窓口の対応」は24年間40%台で推移し続けており、改善が必要な分野だと言えます。



9.不満足項目の経年変化(3年前との比較)

3年前と比較して、「教員の教え方」と「教員と話のできる機会」に改善効果。
工学部と法学部では対応・サービス、医学部では授業についての不満が減少傾向。

不満足と回答した学生の比率を前回(3年前)と比較したものが下表です。「教員の教え方」の不満は5学部で10ポイント以上減少、「教員と話のできる機会」の不満は4学部で10ポイント以上減少しており、両項目で改善の効果が見られます。また、「相談受け入れ体制」の不満が5学部で10ポイント以上減少、「他学部の図書情報システム」の不満が4学部で10ポイント以上減少しています。

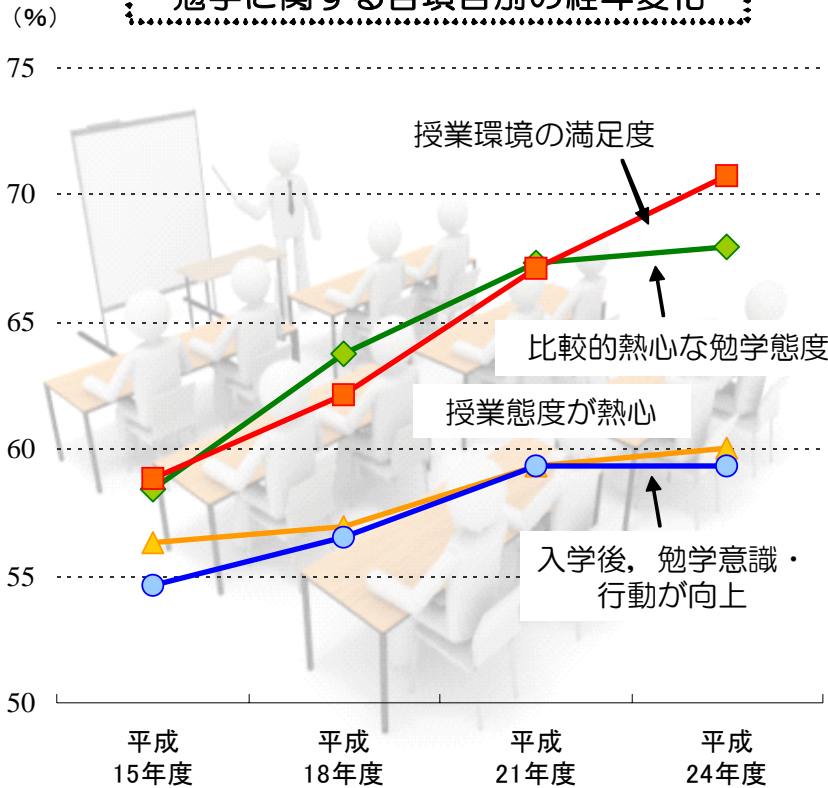
学部別に見ると、10ポイント以上減少した項目が18項目と多いのが工学部と医学部です。前者は『対応・サービスについて』、後者は『授業について』の不満の減少傾向が強い点が特徴と言えます。法学部でも『対応・サービス』を中心に14項目と多くなっています。商学部では「教室・教室内の設備」と「体育施設・設備」、国際関係学部では「教室・教室内の設備」や学生食堂・購買部の不満の減少が目立っています。

不満足層の前回(3年前)との比較		白字	…10ポイント以上不満層減少						黒字	…10ポイント以上不満層増加						<増減ポイント>	
		全体	法	文	経	商	芸	国	理	生	工	医	歯	松	生	薬	
									工	産	工	歯	戸	物	業		
													歯	資	源		
授業について	教員の教え方	-5.8		-9.6	-5.2	6.8	-13.4	-12.3		-10.1	-19.4	-13.6					
	教員と話のできる機会	-6.9	-12.8	-8.3	-12.8	9.6	-9.0	-16.6		-5.8	-12.7	-7.0			-6.2		
	教員の対応	-4.5	-9.9	-5.9		9.5	-6.8	-9.6		-6.9	-7.1	-13.4			-8.1		
	開講科目の種類	-1.8				6.1	-5.6				-7.2	-14.5				-11.8	
	科目登録時の選択の自由性	-2.0			-9.9	10.7						-8.4	7.5			-6.2	
	総合教育科目の授業内容	-2.6			-5.9		-5.4					-6.1	-14.6		-5.8	-7.5	
	外国語科目の授業内容	-4.0	-8.5	-11.2				-6.3		-5.8		-20.8				-7.2	
	保健・体育科目の授業内容	-3.9	-12.6	-6.8						-7.6	-6.2	-13.1					
	専門科目の授業内容	-4.1					-8.8	-7.8		-5.9	-6.9	-15.6	7.9				
	他学部の授業との単位互換の機会	-4.0	-7.9	-9.7	-9.2	5.0		-10.2		-7.4	-9.7	-12.8					
	学部内の他学科授業の受講機会	-4.2	-5.9	-7.2		6.4		-18.9			-10.6	-12.7	-15.1				
	学生の研究活動の自由さ	-3.6	-9.2					-7.2	-7.2	-7.2	-7.6	-15.4	8.3			-10.9	
	授業料に見合う授業内容・施設	-3.4		-7.5				-8.9	-7.7		-5.6	-10.8	-8.3	8.1			-7.2
施設について	教室・教室内の設備	-4.2	7.1	-5.1		-30.4		-15.5		-12.3	-11.8	-5.4					
	研究施設	-4.1				-14.7	-9.4	-9.2		-7.8		-10.5	6.5				
	施設・機器備品の貸与サービス	-3.8		-6.6		-10.5		-6.5		-10.0		-9.8	5.6				
	コンピュータの利用環境	-2.5					-5.0			-11.6		-8.3	6.3			-11.8	
	コンピュータの利用時間	-3.8		-8.7			-11.2			-11.1	-10.9	-6.3	5.1	5.8		-5.4	
	図書館の設備、雰囲気	-4.4	-5.3			-8.0	-10.6			-8.3	-5.7		9.3			-5.8	
	図書館の蔵書内容	-4.2	-6.8			-11.5	-9.3	-7.8				-5.6				-10.1	
	図書館の開館時間	-4.4	-7.2	-5.7		-9.0	-8.7		-8.8	-6.7			9.0	5.7		-11.2	
	図書館の閲覧、貸し出し	-3.4	-7.0			-5.3	-7.6	-7.3				-5.6	-7.1	5.7	5.5		
	体育施設・設備	-8.0	-18.0	-7.5	-9.3	-39.2						-7.7	7.4				
	学生食堂のテーブル数・混み具合	-1.8				-6.9	-16.1		5.7		-11.2	-12.8	6.3	-8.0			
	学生食堂のメニュー・値段	0.5		-11.9		29.2	-13.2		5.1		-5.0	-7.7	6.1	-7.7		-5.0	
	購買部(売店)の品数・サービス	-7.1		-20.6			-15.6		-7.6	-11.3	-6.0	-6.6		-5.8			
	食堂、購買部の営業時間	-5.8		-10.7		-7.2	-17.2			-7.4	-12.5	-8.7	7.6	-5.1		-5.5	
	学生ホール等学生の憩いの場	-4.5		-8.5		-6.6		-9.7		-10.0	-7.1					-6.8	
サークル室・部室	-3.3		-5.7		-6.1	-12.7				-8.1	-7.5	5.4			-25.6		
サークル活動の自由さ	-1.8					-6.3				-6.1	-6.7	13.4	-5.0		-5.0		
キャンパスの配置、雰囲気	-3.9		-8.8		-9.2	-11.7			-12.4		-9.3						
対応・サービスについて	事務窓口の対応	-1.3	-18.3		22.6	-6.1	11.0		-9.9	-27.1		23.0	12.6	9.3			
	授業情報の知らせ方	-4.6	-11.8		-8.0	9.0	-6.2	5.1	-7.7	-27.4		10.0	7.6	-6.8			
	事務伝達事項の掲示や知らせ方	-3.6	-10.2		-6.5	6.2			-9.1	-25.4	-8.9	7.5	5.4				
	奨学金制度の利用のしやすさ	-4.7	-16.9				-5.3			-10.7	-13.9		5.2				
	相談受け入れ体制	-6.9	-14.1		10.4	-16.8	-5.6		-5.9	-12.8	-20.7	-14.0	5.3	-5.7			
	学部内の学科転科の機会	-4.4	-10.8	-8.0		-7.1	-5.1			-9.6	-8.4	-8.9	9.5			-5.4	
	学部情報の学生向けHP	-4.7	-8.2		9.8	-6.5			-5.4	-10.2	-15.9	-10.3				-8.7	
	他学部の教員・学生との交流	-6.6	-14.0	-5.1	-12.8		-9.1	-8.3		-9.8	-15.0	-9.9					
	他学部への編入転入の機会	-4.7	-11.0	-7.2		-9.5				-8.5	-8.0	-12.5	6.9	5.6			
	他学部の催し物等の情報入手	-4.9	-8.4	-5.4	-7.1		-9.2	-9.2		-5.5	-12.3	-13.1					
他学部の図書情報システム	-5.8	-10.7			-8.8	-14.2	-5.2		-6.6	-10.3	-12.9		6.6	-5.0	-6.9		
他学部の就職情報システム	-6.0	-11.8	-5.0		-6.4	-11.4	-9.0		-6.6	-13.4	-18.2						

(注)学部別は、増減が5ポイント未満は非表示。

勉学志向が益々上昇

勉学に関する各項目別の経年変化



平成15年度 ~ 平成24年度

左のグラフは、本学学生の勉学に関する態度の経年変化を見たものです。全体的に勉学に対して熱心もしくは積極的に取り組む学生が増加していることがうかがえます。

特に上昇傾向が顕著なものは、『授業環境の満足度』で、平成15年度から平成24年度の9年間に58.9%から70.7%と11.8ポイントも上昇しました。『授業環境』の中で最もポイントが上昇した項目が「教員の教え方」であり、FD活動の成果による教員の努力が表れていると言えるでしょう。同期間に『比較的熱心な勉学態度』は9.5ポイント、『入学後、意識・行動が向上』は4.7ポイント、『授業態度が熱心』は3.7ポイント上昇しています。

学部別に見ると、『授業環境の満足度』は法学部、その他勉学に関する3項目は医学部が最も上昇しています。

グラフの解説:『授業環境の満足度』は「教員の教え方」「科目の種類」「総合教育・外国語科目・専門科目の各授業内容」「研究活動の自由さ」について「満足している」の%の平均値。『比較的熱心な勉学態度』は「授業はもちろんのこと、さらに自主的なテーマを設定して積極的に勉学」「教科書・ノートを中心として、必要な単位を修得」の%の合計。『授業態度が熱心』は総合教育・外国語・専門科目の各授業について、「授業に関心があり熱心」と「まあまあ熱心」の%を合計した平均値。『入学後、勉学意識・意欲が向上』は現在の意識・行動のうち、「勉学意欲がもてるようになった」「自分の基礎学力の不足を痛感する」「はっきりとした目標をもって勉学している」について「はい」と回答した%の平均値。

右のグラフは上記で取り上げた全項目の平均値の経年変化を見たものです。『勉学志向全般』の傾向は平成15年度の57.2%から、平成24年度には65.0%と7.8ポイント増加しており、勉学に対する学生の意欲や熱意は年々増していることが分かります。

『勉学志向全般』について平成15年度からの9年間の変化を学部別に見ると、医学部で18.2ポイント増と最も高まったのをはじめ、国際関係学部で12.0ポイント増、工学部で11.8ポイント増、法学部で11.7ポイント増などとなっており、ほとんどの学部で『勉学志向全般』が高まっています。

